



H20. 3. 4 No1246
静岡県漁業協同組合連合会
☎054-254-6011 Fax054-253-9343
編集・発行 = 指導部 漁政課
URL: <http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/>

= 業種別団体総会特集 =

1. 平成 20 年度通常総代会開催される

- 県しらす船曳網漁業組合 -

2月7日、県しらす船曳網漁業組合(組合長理事: 斉藤政和静岡漁協組合長)では、伊東市において平成20年度通常総代会を開催し、平成19年度事業報告、20年度事業計画等の提出議案は全て承認されました。

なお、平成19年度の駿河湾、遠州灘におけるシラス漁は、3~12月の主要6港(静岡、吉田、御前崎、遠州、舞阪、新居)における総水揚量は7,736トンで、前年(6,449トン)の119%、平年(5,578トン:過去5カ年平均)の139%と、前年及び平年を上回り、特に3~6月の水揚量は5,232トンと過去20年間で2番目となりました。

総水揚金額は4,404,779千円で、前年(4,037,287千円)の109%、平年(4,067,965千円)の108%と、前年及び平年を上回りました。平均単価は569円/kgで、前年(626円/kg)の91%、平年(769円/kg)の74%でした。

2. 第61回通常総会開催される

- 県機船底曳網組合 -

2月8日、県機船底曳網組合(和久田喜代治組合長理事)では、熱海市において平成20年度第61回通常総会を開催し、平成19年度事業報告、20年度事業計画等の提出議案は全て承認されました。また、県水技研利用普及部の小林憲一主任から「駿河湾、遠州灘におけるアカザエビ資源について」と題した講演がありました。

なお、平成19年度の漁模様は、春漁ではカニ、エビ等甲殻類は減少傾向でしたが、秋漁ではタカアシガニが近年になく豊漁となり、底魚類、イカ類の水揚量も増加しました。

しかし、金額的には近年の傾向で、少し多く獲れると魚価が極端に下落するという状況で、あわせて燃油の高騰が更に進み、漁業経営は容易ならざる状況であると報告されました。

3. 第59回通常総会開催される

- 県旋網漁業者協会 -

2月22日、県旋網漁業者協会(山田洋二会長理事)では、伊豆の国市において平成20年度第59回通常総会を開催し、平成19年度事業報告、20年度事業計画等の提出議案は全て承認されました。また、任期満了に伴う役員選任の結果、次のとおり決定されました。(敬称略)

会長理事 山田洋二(戸田: 浜平丸)、副会長理事 増田秀彌(内浦: 8海勢丸)、監事 塩谷奉民(仁科浜: 1塩徳丸)、鈴木辰雄(静浦: 8大成丸)、加藤英二(静浦: あさひ丸)

なお、静岡県における平成19年度のマイワシ水揚量は、全般的に極めて低調に推移しました。主要港における年間水揚量は、静浦漁港では3トンで前年(22トン)の14%、平年(177トン)の1.7%、小川港では126トンで前年(208トン)の61%、平年(904トン)の14%と両港ともに前年及び平年を大きく下回りました。沼津港では329トンで、前年(326トン)並みとなりましたが、平年(1,552トン)の21%と、平年を大きく下回りました。伊東港では28トンで、前年(3トン)の約9倍、平年(120トン)の23%と、前年を上回ったものの平年を大きく下回りました。

安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう

自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

4. 平成 20 年度通常総会開催される

- 県桜えび漁業組合 -

2月29日、県桜えび漁業組合(望月 武組合長理事)では、熱海市において平成20年度通常総会を開催し、平成19年度事業報告、20年度事業計画、規約の一部改正等の提出議案は全て承認されました。

なお、平成19年度の春漁(4月2日夜~6月5日夜)は、出漁日数23日(昨年22日)、漁獲量1,296トン(同1,337トン)で、秋漁(11月4日夜~12月21日夜)は、出漁日数13日(同14日)、漁獲量551トン(同491トン)となりました。水揚金額は、5,200,609千円と前年比(4,383,202千円)で119%となりました。

5. 食のプロを目指す若者に、沼津産養殖マダイをPRする

本会では、養殖生産物品質安全普及事業(県補助事業)の一環として、2月20日鈴木学園中央調理製菓専門学校静岡校(静岡市葵区)において、食のプロフェッショナルを目指す学生27名を対象に「地産地消講座~沼津産養殖マダイ編~」を開講しました。

これは、学生たちに、地元沼津で生産された安心、安全なマダイをPRし、将来、飲食関係の職業についてからも静岡県産の食材として扱ってもらうことを目的としたものです。

当日は、沼津市青壮年部連絡協議会の原田敏行会長(有丸西水産専務取締役)から「マダイの養殖業について」と題して、その生産方法やこだわりについて、現場の写真を取り入れながら説明があり、続いて、地元の魚屋「魚敬」の主人望月記幸氏からマダイの下ろし方と姿造りの実演や昔と今の養殖魚の品質の違いなどの話がありました。

そして、両氏の実技指導のもと、学生1人がマダイ1尾を下ろしました。料理専門学校の学生とあって、上手にマダイを下ろし、捌いたマダイを余すところなく次の授業に利用していました。このようなPR活動を継続することによって、食を担う若者たちに地元食材の良さが認識されていくことが期待されます。

6. 駿河湾深層水の利活用商品を展示・販売

駿河湾深層水利用者協議会(村松善八会長)では、2月27日ツインメッセ静岡(静岡市)において「第5回駿河湾深層水商品フェア」を開催しました。

今回のフェアは、例年同様の静岡県こだわりの味協同組合と新たに業務食品販売(株)コーゲツ(沼津市)の展示会とあわせて開催され、それぞれのバイヤーや来場者が他の展示会にも入場できるように配慮があり、例年を上回る来場者が訪れました。

会場では、協議会会員13社が、水産加工品、漬物、醤油、菓子、液体肥料など駿河湾深層水を利用した商品を主体に展示、販売をしました。

また、駿河湾深層水で飼育されていたアカザエビの展示が行われ、来場者の関心を集めていました。

7. ライフジャケット着用義務範囲が拡大される

船舶職員法及び小型船舶操縦者法施行規則の改正により、平成20年4月1日から、ライフジャケット着用義務対象者が変更され、航行中の漁船に1人で乗船して漁ろうに從事する場合は、連絡手段を確保していても、ライフジャケットの着用が義務となります。違反した場合には、6ヶ月以内の免許停止等の処分の対象となりますのでご注意ください。

ライフジャケットのお問合せについては、本会資材課(054-252-5154)、焼津事業所資材課(054-627-2446)までどうぞ。

漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう